

宇宙開発の現状報告

(平成 22 年 10 月 6 日(水) ~ 平成 22 年 10 月 12 日(火))

平成 22 年 10 月 13 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

- 市販 GPS 受信機の準天頂衛星システム対応支援制度の開始について
10 月 12 日(火)、JAXA は準天頂衛星初号機「みちびき」からの測位信号送信開始に先立ち、市販 GPS 受信機の準天頂衛星システム対応支援の制度を開始した。本制度は、一般の GPS 受信機/チップメーカーが、既存製品を基に準天頂衛星システムからの測位信号を受信処理するための製品改修・新製品開発を行うにあたり、JAXA が公開している技術仕様に関するコンサルテーション、JAXA が保有する信号シミュレータの使用、準天頂衛星システムのモニタ実験局で取得したデータの提供などにより、応募企業の開発、試験検証を支援するもの。
- 平成 22 年度「宇宙の日」全国小・中学校作文絵画コンテストの表彰式について
10 月 10 日(日)、JAXA 筑波宇宙センターにて、「宇宙の日」全国小・中学校作文絵画コンテストの表彰式が開催された。同コンテストは、9 月 12 日の「宇宙の日」の記念行事として、小・中学校を対象に、文部科学省ほか 6 法人主催(宇宙開発戦略本部後援)で実施したもの。今年度は「宇宙を利用した未来の」をテーマに、4 月 9 日(金) ~ 7 月 31 日(土)の期間で作文及び絵画を募集し、審査を経て、文部科学大臣賞、宇宙開発担当大臣賞等を決定

(応募総数作文の部[小学生:411 点、中学生:312 点]、絵画の部[小学生:15,447 点、中学生:1,831 点])。なお、表彰式には海江田宇宙開発担当大臣が出席され、表彰状の授与等をされた。その後、海江田大臣は、JAXA 筑波宇宙センターをご視察された。

宇宙開発に関する海外の動向

- 長征ロケットによる科学衛星の打上げに成功 【中】
10 月 6 日(水)0 時 49 分(世界標準時、以下同じ)、中国は太原衛星発射センターより、長征 4B ロケットを打ち上げ、科学衛星「実践 6 号 4A(SJ-6-4A)」及び「実践 6 号 4B(SJ-6-4B)」の所定の軌道投入に成功した。
- ソユーズ(第 25 次/26 次長期滞在員搭乗)の打上げ成功 【露】
10 月 7 日(木)23 時 10 分、ロシア連邦宇宙局(FSA)はバイコノール宇宙基地からソユーズロケットによりソユーズ宇宙船の打上げに成功した。同宇宙船は 10 日(日)0 時 01 分に国際宇宙ステーション(ISS)にドッキングし、搭乗する ISS 第 25 次/26 次長期滞在員 3 名(米 1 名・露 2 名)は、約 5 か月間 ISS に滞在する予定。
- はやぶさ模型等寄贈式及びはやぶさ成果報告会の開催 【豪】
10 月 12 日(火)、豪州キャンベラの豪州国立科学技術センター(クエスタコン)において、文部科学省、JAXA、豪州イノベーション産業科学研究省(DIISR)の共催にて、はやぶさ模型等寄贈式及びはやぶさ成果報告会が行われた。はやぶさ模型等寄贈式では、「はやぶさ」1/5 模型(長さ約 1.4 m)、小惑星「イトカワ」1/1000 模型(長さ約 0.5 m)等が贈られた。文部科学省からは笹木副大臣が政府を代表して出席し、豪州政府に対し、はやぶさ帰還に際しての協力に対する謝意が述べられた。